

■実行委員長あいさつ



2017年も余すところ2週間ばかりとなりました。今年もいろいろな出来事がありました。何と言っても注目すべきは、7月7日の国連会議で核兵器禁止条約が採択されたこと、ノーベル平和賞を核兵器廃絶国際キャンペーン ICAN が受賞したことでしょう。これは人類の核兵器廃絶の歴史において画期的となるものです。

しかし、一方で朝鮮半島ではアメリカのトランプ大統領と北朝鮮の金正恩委員長の間で戦争の威嚇や挑発合戦が続いています。そして朝鮮半島、東アジアでの政治的緊張が極度に高まっており、いつ核戦争がおきてもおかしくない情勢となっています。このような情勢の下で、唯一の被爆国である日本の安倍晋三首相は「完全にアメリカを支持する」「一切の対話に応じず強い姿勢を堅持する」と言ってアメリカとの共同歩調を誇示しています。

ヘルスプロモーションの究極の目標は、平和であると言われます。万が一戦争が始まれば、私たちの平穏な日常生活は一夜にして吹き飛んでしまい、大切な国民の命や長年に亘って築かれてきた医療の根幹も揺るがしかねません。「核抑止論」に固執するのではなく、まず対話を追求することを重ねて望みたいと思います。奇しくもこのようなときに、当法人の名誉理事長でもあった肥田舜太郎先生が今年3月20日に100歳という長き生涯を閉じられました。巻末資料にもありますが、肥田先生は、陸軍軍医として赴任中であつた広島で1945年原爆投下に遭われました。その惨状の中で自ら被爆しながらも多くの被爆者の援護に尽くされました。戦後は、一医師として患者の立場に立って診療し、医療生協さいたまや全日本民医連の礎を築かれるとともに、国内外で原爆被害の実相を語り伝え、核兵器廃絶の運動の先頭に立って活動されました。私たちはあらためて肥田舜太郎先生の遺志を継いで、核兵器のない平和な世界の実現のために努力することを決意したいと思います。そして日本の政府が核兵器禁止条約に一刻も早く批准するように私たちも大いに署名運動に取り組みましょう。

さて、学術交流集会と運動交流集会が同時開催されるようになって、今年で6回目となります。今年の学術運動交流集会の特徴としては、同時開催になってからは初めてのミニレクチャー形式となることです。実は、今年では全体会をおこなえるような大きな会場が確保できなかったためです。2020年の東京オリンピックに向けて都内のホテル、イベント会場がリニューアルを進めており、その影響で埼玉でも会場が確保困難となっています。そこで今年は8つのテーマでミニレクチャーを開催することになり、それはそれで良かったと思っています。以前から職員の感想文で、「時々ミニレク形式でいろいろ学びたい」という要望があったからです。今後できれば全体会での記念講演とミニレクチャーを交互にするなど検討していきたいと考えています。

今年の分科会は全体で158の演題が集まりました。残念ながら昨年の195演題を大きく下回りました。また演題全体のうち、学術演題は31演題、実践交流演題は127演題で、学術演題が例年に比べて極めて少ない傾向がみられます。翌年あるいは数年後を見越して研究計画を立て、じっくりまとめて発表するという研究スタイルを是非確立していただくようお願いします。今集会が参加された多くの職員のみなさんの学びの場となることを願っています。

2017年12月17日

第6回 埼玉民医連 学術・運動交流集会
実行委員長 福庭 勲